

大阪で温故知新



総ガラス張りのガーデンルーム
何と数百万円

先日、大阪で関西エクステリアフェアが開催されるとの事で、近年ご相談の増えているエクステリア関係の参考になればと、コロナが落ち着いてきたこともあり、時間のとれた私と宮本君とで視察に行きまして。やはり、行って見ると普段では見ることのできない実物に触れることができ、最近のトレンドや、ITを活用したプレゼンの手法などとても参考になりました。忙しくても時には情報収集に行かなくてはいいけませんね。

冒頭に書きましたように、その日に大阪駅の近くにこれまで弊社を担当されたTOTOの方々が集まっていたいただき楽しく杯を重ねた次第。右手前の白髪のT氏は新入社員で広島に赴任し担当していただき、30年後には広島に帰ってこれられ中国支社長まで務められました。なんと30年以上のお付き合い！その他の皆さんも50歳代を迎えられ、組織の中でも重責を担っておられるようです。この真面目な諸氏の日々の汗が売上6400億もの大企業を作り上げていると痛感した次第です。メーカーの使命は社会により良いものを作り出していくこと。そして私どもは、その商品で「住まいの“困った”を“良かった”」に変えていくことですので、これからもしっかりと良い関係を続けていきたいものです。(啓)



元担当していただいた
TOTO社員諸氏



中谷君結婚しました！



婚姻届と二人

平成29年に入社した廿日市店工務担当の中谷君。去る6月11日に亜美さんと言う女性と入籍をしたとの事です。2年前に廿日市店に移動してから、宮園や四季が丘の奥様方から「中谷君独身なの？」とよく聞かれて人気を博しておりましたが、これからはその人気もこれまでという事になるのでしょうか(笑)

さて、新婦の亜美さんは岩国名物レンコンを作っているレンコン農家の娘さんとの事で、中谷君はこれまでも収穫期には手伝いに行っていたようです。結婚式は2年前に結婚した中谷君のお兄さんがコロナでまだできていないのでしばらく未定との事。新居はこれまで通り岩国に住むとの事です。

建築中の美術館の石積み



相変わらず、早朝ウォーキングを続けております。2月の前々号で大竹市晴海にて工事が進んでいる美術館についてご紹介したところ、たくさんの方から反響をいただきありがとうございました。工事の方は5月に入ってから植栽も始まり、少しずつですが進んでいるようです。日々の工事を見ていてアレ？と思ったのが写真の石積みです。コンクリート擁壁は早い段階で施工していたのですが、よもやこの擁壁に石積みを添わせるとは思いませんでした。まあ強度の事を考えれば間違えの無い施工なのでしょうが・・・この施工を石積みの名手と言われた「加藤清正公」が見たらなんと言おうのかなあ？なんて仕方の無い思いを馳せながら歩いております。それにしても天気の良い日の宮島からの日の出は最高です！(啓)

「住いの困った」は ゲイナンハウス 大竹店・廿日市店共に
フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>
最後までお読みいただき有難うございました、次回は8月頃の予定です。(啓)
*尚、この「住まいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。



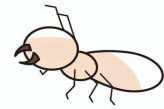
河野



みなさんこんにちは！今年も鬱陶しい梅雨の季節となりました。この時期で記憶に新しい事は、早いもので4年前になる坂町から呉市にかけての豪雨災害です。呉市天応駅近くの家内の実家は幸いにも被害はありませんでしたが、近くの天応地区では土砂災害などで多くのお宅が被災され、何人の方がお亡くなりになった甚大な災害でした。近年地球温暖化の影響で集中豪雨の発生が増えてきているとの事ですので、避難指示が出たら速やかに避難できるように準備しておかなくてはなりませんね！

さて、写真の壺は、弊社の創業50周年のお祝いにと住宅設備メーカーのTOTOさんからいただいた物です。TOTOさんは、100年前に日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニー)と言う陶器を作る会社として発足し、以後衛生陶器の会社へと分社化し、現在の総合住宅設備メーカーへと発展してこられました。このグループ会社には大倉陶園と言う陶磁器メーカーがあり、その大倉陶園で作られた写真の壺をいただいた次第です。この壺をいただいたことをこれまで弊社を担当してお世話になった方々にメールなどで報告したところ、たくさんの方々からお祝いのお電話をいただき、何人の方が大阪支社に居られることが分かりました。先日大阪に出張すると伝えたところ早速に何人もが集まっていたので、杯を交わし昔話を花を咲かせて参りました(詳細は裏面に)。弊社が40年近く前に大きな不渡りを受け倒産の危機に瀕していた頃、当時担当のYさんが「チラシを応援するから展示会やってみなさい！」と背中を押していただいたお陰で、時間はかかりましたが現在の様な業態へと転換できたと感謝している次第です。これからもこのご縁を私だけでなく、皆が大事にしてお互いの発展につながればと願っております。

コロナ禍も長引いていた第6波も少しづつ落ち着き始めて来たようですが、前号でもお知らせしたように電子部品不足による給湯器や換気暖房機などの納期遅れがまだ続いている状況で、皆様にはご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございません。たくさんの方に「仕方ないね～」と快くお待ちいただけますことに、心より感謝申し上げます。いずれにしても普通の日々が一日でも早く帰ってくることを願うばかりです。(啓)



知っておきたい”シロアリ対策” 水回りだけでなく、玄関も・・・

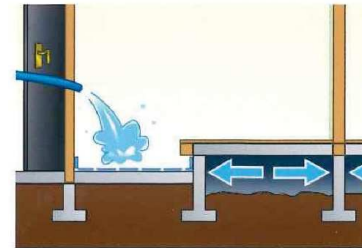
今シーズンもシロアリの相談を数件いただき、シロアリの防除までさせていただきました。一番ポピュラーな”ヤマトシロアリ”の羽化(羽アリとなって出現)が4月から5月。梁などまで登って大きな被害を与える”イエシロアリ”の羽化が6月から7月と、ちょうど今頃なのです。

木造戸建て住宅でシロアリの被害が多い箇所は、湿気が多い浴室などの水回りなのですが、実はあまり知られてないのは、水回り以外で多い箇所が”玄関”なのです。なぜ玄関にシロアリの被害が多いかを知人のシロアリ業者さんが分かりやすくイラストにしてくれていたので右にご紹介します。是非、その理由を知っていただき、参考にいただければと思います。

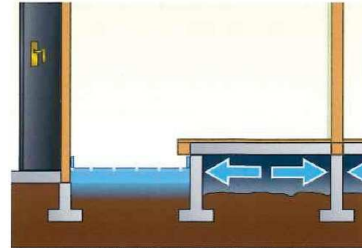
玄関に入った土などをきれいにしようと、玄関の土間に水を撒いて掃除をすると、土間タイルの目地は吸水性があり、そこからタイル下に水が浸透します。表面的にはしばらくすると水が乾いたように見えますが、土間下ではどんどん湿気がこもっていきます。すると土の中にいるシロアリたちが「ここは良い環境だなあ〜」と集まってきます。シロアリは空気の流れ(外気)や光を嫌うため、地表を木部の表面をそのまま歩いて移動することはありません。地表や柱の表面を移動するためには「蟻道」と呼ばれるトンネルの道路を作ります。ですのでこの土間の中だと外気や光に触れることなく楽にエサとなる木枠や上がり框に簡単に到達することができるので、玄関に被害が多いという事になるのです。

という事ですので、これからは玄関の土間の掃除はよほどのことが無い限り、水を流すのではなく、掃き掃除や拭き掃除がお勧めですね。

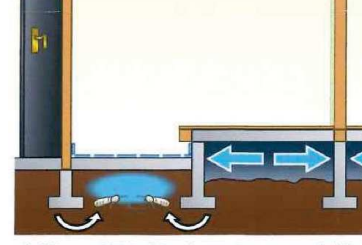
タイル張りの浴室もそうですが、土間タイルにひびや割れがあると土間により水が入りやすくなり、シロアリの大好きな湿気が多い土間になってしまいます。ですので、土間タイルのひび割れなどを見つけたら、早めに修繕ですね!(啓)



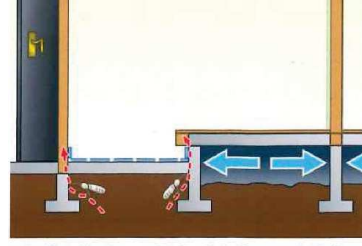
玄関に掃除だからと水を撒いてしまうと



タイルの目地が水を吸収してしまい・・・



土間下に湿気がこもってシロアリ集結



食料も豊富で、居心地もとても良くて

併せて、知っておきたい この時期発生する”土間の結露”について

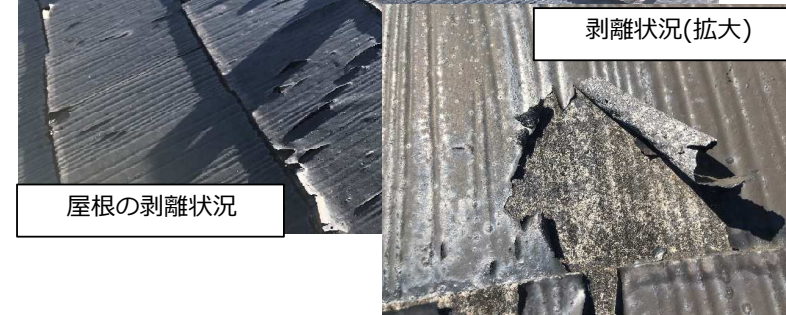


土間タイルの結露

この時期時折あるのが「玄関で水が漏れているので直してほしい」という依頼です。お伺いして水道管などの配管を確認しても、玄関付近に配管は無く、漏水ではないことは分かりますが、左の写真のように、玄関タイルが濡れている・・・

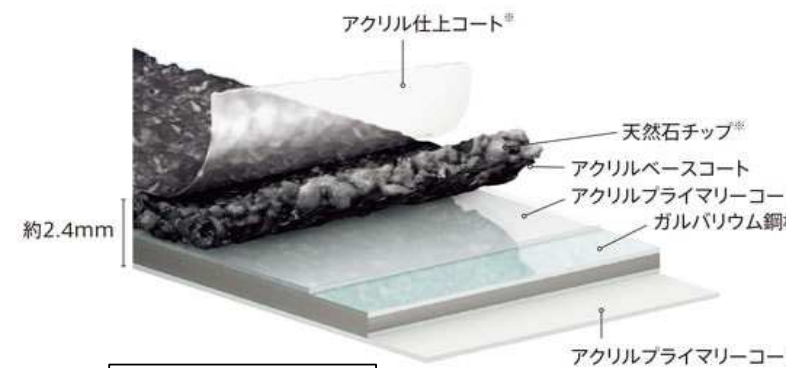
この原因は、梅雨時分特有の、暖かい湿った空気に含まれる水蒸気が、冷たい土間タイルに触れて”結露”したものなのです。近年の施工方法では土間に断熱材を施工しますので”結露”は起こりにくくなっています。上記のシロアリの項で書きましたように、結露水が土間に浸透するとシロアリの大好きな環境になりますので、結露がひどい場合は雑巾等で拭きとるなどの対策を取られたら良いかと思います(啓)

塗装できなくなったカラーベスト屋根 既存屋根材をそのまま長寿命の金属屋根に!



屋根の剥離状況

剥離状況(拡大)



約2.4mm

Tルーフ



完工

5年前に屋根の塗装替えをさせていただいたお客様より「屋根がボロボロ剥げている」との連絡をいただきました。早速訪問して確認してみると、写真のようにボロボロと塗膜が剥離していました。

5年前に塗った塗料の施工方法が悪く、剥離しているのか塗料メーカーに確認してみると、塗った塗膜ではなく、その下のカラーベストの基材から剥離していることがわかりました。

カラーベストの基材が剥離しているとなると、もはや塗装して補修しても同じことが起こるため塗装での修復は不可能なことが判明しました。

併せて、人体に有害なアスベスト(石綿)対策の法律により、アスベストを含有していると思われる物の解体などは、アスベストが飛散する恐れがあることや、処分方法に規制がかかり難しい状況となってきています。

そこで、今回採用した屋根材は、基材は長期耐食性に優れたガルバリウム鋼板を使用し、表面には天然石を吹き付けてある”Tルーフ”と言う屋根材です。メーカー保証も付いており、天然石チップの美観保証10年・基材の保証が30年と言う高耐久の屋根材です。



アスファルトルーフィング

まだ足場が残っていますが、左の写真がドローンで撮影した完成写真です。瓦のようにも見える落ち着いた出来栄です。

カバー工法という事でアスベスト対策にも適していますが、非常に軽い屋根材ですので、重い瓦から葺き替えることで、住まいの耐震性の向上にも最適な屋根材です。